HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 4, 79-82
Issue Date	1978-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25513
Type	other
File Information	4_P79-82.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研　究　室　報

講　義　題　目（昭和５２年度）

文　学　部

独語学概論		川島淳夫
独文学史概説		青柳謙二
独語学演習	Schiller：Wilhelm Tell	塩谷饒
独語学演習	Gedichte（前期）	H.Kempf
	Lyrik（後期）	E.Kleeberg
独文学演習	Moderne Erzählungen	青柳謙二
独文学Ⅰ	Leseübung（前期）	渋谷寿一
	Ricarda Huch（後期）	新妻篤
独文学Ⅱ	George Saiko	U.Walberer

大　学　院

（修士課程）

独語学特殊講義	ドイツ語史の諸問題	塩谷饒
独語学特殊講義	Grundbegriffe der Linguistik（前期）	H.Kempf
	Sprachübung（後期）	E.Kleeberg
独語学演習	現代ドイツ文法理論	川島淳夫
独文学演習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青柳謙二
独文学演習	Büchner-Preis-Reden	U.Walberer

（博士後期課程）

独語学特殊演習		塩谷饒
独文学特殊演習		青柳謙二

卒業論文題目

昭和５１年度

小野裕子	ヘッベル悲劇における女性像をめぐって
西塚聖子	Theodor Storm„Hans und Heing Kirch“
岩田聰	E.T.A.ホフマンの「砂男」について
長尾誠	「Rilkeの美術論について」
竹原一弘	ゲオルク・トラークル

昭和５２年度

有薗美隆	ペーター・ヴアイス論—生への参加としての真理伝達 —
吉本牧人	ドイツ語訳「マルコの福音書」におけるドイツ語の用法
青島淑子	ヘルマン・ブロッホの「獣帯物語」について
浅野素子	トーマス・マン「トニオ・クレーガー」について
武田尚樹	ドイツ語の関係文に関する一考察

修士論文題目

昭和５１年度

佐藤修子	Zu den deutschen Modalverben—Eine kontrastive Untersuchung der deutschen Modalverben im Vergleich mit den japanischen Entsprechungen
山田貞三	三月前期の文学 —青年ドイツ派とビューヒナー—

昭和５２年度

岩井洋	開かれし世界 —F・ヘルダリンの詩作の姿勢をめぐって—
川東雅樹	ロベルト・ムージルの初期の小説
対馬晃	ヴオルフ・ビーアマンの詩の世界

研　究　室　行　事　記　録

◎　昭和５２年４月９日に、第３回合評会が、独文学研究室で行なわれた。

◎　昭和５２年度は、次の４回の研究会がもたれた。

・４月２３日　（独文学研究室）　川島淳夫：「言語記述における単位について」

・６月２５日　（独文学研究室）　塩谷　饒：「ゲルマン語について」

・７月１３日　（独文学研究室）　対馬　晃：「日本の労働者演劇について」

・１０月９日～１０日　（北海道アカデミー青少年センター：白老町）

９日　山田善久：「形容詞について」

武田尚樹：「関係代名詞について」

塩谷　饒：「ドイツ語学３０年」

１０日　灰渕恵子：「時制について」

田中俊明：「複合語と派生語の造語構造」

川島淳夫：「総　　括」

◎　また、昭和５２年度は、次の２回の講演会が、北大文学部で開かれた。

・５月１６日　R.R.K.Hartmann（イギリスExeter大学教授）：「Textology」

・９月　３日　Gerhard kaufmann(Goethe Institut)：
「Komponenten von Sprechsituationen」

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
   1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年１回発行する。
   2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため年額5,０００円（教官は１０,０００円）の会費を支払う。
6. 本会は１名の会長と３名の幹事をおく、幹事は会計１名、編集委員２名とする。
7. 本会の会計年度は毎年４月１日に始まり３月３１日をもって終わる
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独文学研究室におく。

会　員　名　簿

文学部教官	博士課程	修士課程	卒業生
◎塩谷　饒	安岡正義	石川克知	伊藤祐紀子
青柳謙二	神久聡	山田善久	植木迪子
川島淳夫	○田中俊明	岩井洋	加藤寛蔵
高橋吉文	○山田貞三	川東雅樹	佐藤修子
佐藤俊一		対馬晃	瀬川修二
石橋道大		灰渕恵子	三浦国泰
		岩田聰	
		梅津真	

◎は会長　○は幹事

独語独文学科研究年報　第4号

昭和53年2月発行

発行者　北海道大学文学部独語独文学講座

編集委員　田中　俊明　山田　貞三

連絡先　北海道大学文学部独文学研究室内
〒060 札幌市北区北10条西7丁目

印刷所　北海道大学生協プリント部